

今回は縄文時代までを紹介しましたが、今回は弥生時代以降を紹介します。弥生時代と命名されたのは、東京都文京区弥生町から初めて縄文時代以降の土器が発見されたことに由来するもので東京大学キャンパスの横に記念碑があります。ちなみに縄文時代は、土器の表面にヒモをよって、

転がすことによって縄目模様を付けたことが由来です。それまでは、関東地方から東北地方まで、縄文時代晩期の文化が盛んで、今から約二、三〇〇年前に北九州地方に米作りの文化が朝鮮半島や中国南部を経由して伝わってきました。関東地方にも西日本から遅れること二〇〇年、米作りの文化が伝わってきました。

この茂原市でも、綱島にある宮ノ台遺跡から、弥生時代中期の土器が出土し、「宮ノ台式土器」として、学史に名前

が刻まれています。

縄文時代までは、狩猟・採集の文化といわれ、定住をしていないといわれてきました。最近の研究では、青森県の三内丸山遺跡から同一のDNAを持つ粟などの堅果類が見つかっており、ある程度は食べられる植物の栽培を行っていたことが分かってきています。

さて、弥生時代は米作りが広まった時代ですが、米作りは村の共同作業として、水の管理・田植え・草取り・稲刈りまで多くの人々の手がかかります。

当然、田んぼを作れるところには限られますし、水の確保もありますので、定住をしなればなりません。そして、共同作業をすれば、長となる人も出てきます。食べるものにも困ることが無くなり、人口も増えていきます。中世には藻原庄と言われた茂原市域は、米作りに適した場所だったのでしよう。

村々が米作りにより、豊かになって人口が増えていきますと、各村々を統括する権力者というものが生まれてきま

す。この人達の大きな高塚のお墓を作った時代を古墳時代といいます。茂原市域では、長南町能満寺にある長さ七四mもあるような大きな前方後円墳は確認されていませんが、小林西之前遺跡からは、古墳を取りまく周溝が四基確認されています。全国的には、高塚古墳を作っていました。茂原市では、大きな高塚古墳を作るよりは、山の崖面に横穴を掘ってお墓としたものが数多く見られます。

千葉県内では、長生地区・夷隅地区・富津地区に横穴が多く造られています。市内西側の丘陵では、百五十基以上が確認されています。山崎横穴群・富士見中学校内横穴・鏡谷横穴群などがあり、中には長柄町の国史跡長柄横穴群徳増支群のように人や家などの線刻画が描かれているものや中に遺体を安置した玄室に柱などを陽刻し、家型にしたもの等もあります。

茂原市文化財審議会委員

麻生 正信

お問い合わせは、

生涯学習課(9階)

☎(20)15559、FAX(20)16007へ。

文芸コーナー

小綬鶏

金網 あき子

人間の生活圏は広がったのに  
生活の場を奪われた小鳥たちは  
まるでアファガニスタンの難民のように  
追われるようにどこか遠いところに行ってしまった  
あの頃目覚まし時計のように  
朝早く澄んだ空気を震わせて鳴いていた  
特異な声の持ち主さん

ある朝突然忘れかけていたあの声で  
目が覚めた

懐かしい人にも出逢った様な  
嬉しい気がして胸がいっぱいになった  
これってーある日私も突然ふる里を思い出して  
帰りたくなったのにとてもよく似ている  
甲高いユークなその鳴き声は  
チヨットコイ・チヨットコイ喉がすり切れる  
様な切ない

声が掠れていく  
ここで過ごした友だちや恋人を呼ぶ様に  
鳴いている

しばらく此処で鳴いたあと  
雨でどこか遠いところに飛んで行ってしまった

◎選評 斎藤正敏

ある朝、久方ぶりに聞こえてきた小綬鶏の鳴き声。  
懐かしい人に出逢った様という作者の気持ちが分かります。  
生物が共存できる健やかな場所と願わずにはおれません。

- 偶数月は「俳句・短歌・川柳」を、奇数月は「詩」を掲載しています。
- 投稿は楷書でお願いします。作品・氏名にふりがなをふってください。

※詩の原稿送付先(直接選者)へ 〒297-0032 茂原市東茂原7番地 斎藤正敏宛。  
「広報もばらの詩」と朱書きしてください。原稿は30行以内でお願いします。

